| | | DP | CP 編成方針 | I | アセスメント・ポリシー | | |
|---------|-----|--|---|---------------|--|--|--|
| | A | 幅広い教養と専門的知識・技能を身に付けている。 | 西南学院の建学の精神に基づき、西南学院大学学則第一条 で定める目的を実現し、学生が卒業認定・学位授与方針に定め 育質・能力を身につけることも目指して、正課においては、大資質・能力については、下表に定めるとおり、各授業科目の到達目標に 学教育における共通基盤及び教養の育成のための共通科目 集、学位課程プログラムの基幹となる専門科目群によりカリキュラ が入っマップに示す各種調査などを必要に応じて用いることによって、そ で編成する。 | | | | |
| 第一 | В | 学びと研究の質を高めることができる思考力・判断力・表現力等 を幅広く身に付けている。 | | | 対する学修者の到達 が定める大学のアセス | | |
| 層 | С | 地域社会及び国内外の諸課題の解決に主体的・創造的に参画・ 貢献することができる。 | 育成すべき資質・能力に照らし、その内容・順次性を吟味し、体 系的に科目を配置する。なお、主に「知識・技能」及び「思考力 判断力・表現力等」の育成に寄与する科目は、「総合的な経験・ 創造性」に寄与する科目に先行するよう配置し、主に「態度・流 | また ント そ | た、本学科の教育内容・活動については、把握・可視化した学修成り マップに示す各種調査などを用いることで、多角的に検証する。 の検証結果は、自己点検・評価活動やFD活動において、本学科のi | | |
| | | 自己の成長と社会の発展のために、自律的に学び続ける態度を 身に付けている。 | 向性」の育成に寄与する科目は4年間にわたって配置する。 | | | | |
| | | | | | 学修成果を測定する方法 | 主な科目 | |
| 第 | A-1 | 幅広い学問領域の基本的な概念や理論を修得し、教養としての 知識・技能を身に付けることで、社会事象を多面的に理解することができる。 | 主に人文科学、社会科学および自然科学の各分野を中心とした、学問の基本的な概念や理論を修得するための科目を、選択 必修として1年次から配置する。 | DP衡 | 目における小テスト、レポート、定期テスト等によって、到達状況を 見点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「知 技能」の学修成果を測定する。 | 教養科目 | |
| 二層 (共 | B-1 | 学びや研究の基盤となる思考力・判断力・表現力を獲得し、幅広い領域に活用することができる。 | リテラシー領域を設け、学びと研究の基盤となる思考力・判断力・ 表現力を修得するための科目を、必修および選択必修として1年 次および2年次を中心に配置する。 | DP領 力・ | l目における小テスト、レポート、定期テスト等によって、到達状況を 夏点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「思考 判断力・表現力等」の学修成果を測定するとともに、外部検定試験 部プセスメントテストの結果も活用する。 | 外国語 データリテラシー スタディスキル ヘルスリテラシー | |
| 通科目) | | 修得した資質・能力を主体的に活用し、多様な人々と恊働しなが ら実際の課題に取り組み、創造的に課題解決に向かうことができ る。 | 実習、演習、インターンシップ、ボランティアなどを中心とした、創造的に思考する力や他者と協働する力を修得するための基礎から発展への科目を、1年次から段階的に配置する。 | 況を | 目におけるグループワークや研究発表、実演等によって、到達状 DP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して 合的な学修経験・創造性」の学修成果を測定する。 | ライフテ゛サ゛イン応用 | |
| | | 社会的課題やそれに対する学習・研究を通して、我々の生き方 の指針を深く考え、自律的に真理を探究し続けることができる。 | ライフデザイン領域を設け、生き方の指針および学び続ける態度 を修得するための科目を、必修および選択必修として1年次および2年次を中心に配置する。 | 到達 | 目における小テスト、レポート、定期テスト、研究発表等によって、 建状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を で「態度・志向性」の学修成果を測定する。 | キリスト教学 ライフデザイン基礎 西南学院史 | |
| | | | | Α | 各科目における小テスト、レポート、定期テスト等によって、到達状 価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して企業経営に関す の学修成果を測定する。 | | |
| | A-2 | 商学分野の知識と技能を適切に獲得・活用することができる。 | 商学部で取り扱う学問体系を理解し主体的に学修するため、経済社会や企業経営について複眼的に理解するための基礎部門 科目を1年次を中心に配置する。 | A-2 | 商学の基本的な学問体系に関する知識を養成する科目において、学修者の基礎知識を問う小テスト、レポート、定期テスト、振り返りシート等によって、その学修成果を測定する。 | 基礎商学 | |
| | A-3 | モノとカネの効率的配分や円滑な流通について理解している。 | 流通、金融の機能と基本原理及び流通、金融に係る歴史・現状 政策やリスク管理の手法を理解し、これらの知識を現実の商取引 に応用する方法を学ぶための商学部門科目を主に2年次より配置する。 | A-3 | 商学部門科目において、経済社会・企業経営に関する理論と実態について、それらの知識を問うハテスト・レポート・定期テスト等によってその学修成果を測定する。状況により、学修者に質問紙調査を実施し、学修成果を測定する場合もある。 | 流通総論 | |
| | A-4 | 企業成果の計算・公表およびそれらに基づく経営管理について 理解している。 | 会計分野の高度な専門知識や会計情報を作成する能力及び会計情報に基づく経営分析を行う能力を身に付けるための会計学部門科目を主に2年次より配置する。 | A-4 | 会計学部門科目において、経済社会・経営分析に関する基礎的 な技法について、それらの知識・技能を問う小テスト・レポート・定 期テスト等によってその学修成果を測定する。 状況により、学修者 に質問紙調査を実施し、学修成果を測定する場合もある。 | 簿記原理 I | |
| 第 | | | | В | 商学部門科目や会計学部門科目の周辺的な学問領域の科目にま ト、定期テスト等によって、到達状況をDP 観点別に評価した結果を 全学年を通して当該領域の知識ならびに思考力・判断力に関する る。 | 集約し、学年別及び | |
| 二層(専攻科目 | B-2 | 経済社会に生起する問題の本質を正しく認識することができる。 | 流通、金融の機能と基本原理を理解し、これらの知識を現実の 商取引の理解に応用する能力を修得するための商学部門科目 や、会計分野の高度な専門知識を持ち、会計情報に基づく経営 分析を行う能力を修得するための会計学部門科目を、主に2年 次より配置する。 | B-2 | 商学部門科目や会計学部門科目の周辺的な学問領域に関する 知識を養成する科目において、主に基礎知識を問う小テスト、主 に服を考力・表現力を問う・ポート、主に思考力・判断力・知識を問 う定期テスト等によって学修成果を測定する。 | 経営管理論 | |
|) | | | | С | 各科目におけるグループワークや研究発表等によって、到達状況 た結果を集約し、学年別及び全学年を通して学修成果を測定する 研究発表等の成果物はレポート・報告書・論文・発表等からなり、そ 的な学修経験の程度や創造性などの水準を判断する。 | 。グループワークや | |
| | C-2 | 経済社会に柔軟に対応でき、かつ、高い倫理観と高度な専門知識を身に付けている。 | 高度な倫理観に支えられた論理的な思考力を修得するための商 学部門・会計学部門科目や、グローバル社会でのビジネス・コ ミュニケーション能力を高め、ビジネスでの問題解決に向けたア イデアを立案・実行する創造性を修得するための研究・応用部門 科目を3年次及び4年次を中心に配置する。 | C-2 | 商学部門・会計学部門科目の知識を応用し研究を実施する専門 的な演習において、学修者のレポート・報告書・論文・研究等の 発表・演習への参加態度によって学修成果を測定する。 | 専門演習 I | |
| | | | | D | 各科目におけるレポートや研究発表等によって、到達状況をDP 観を集約し、学年別及び全学年を通して「専門知識に基づく自律的な成果を測定する。 | | |
| | D-2 | 専攻する分野を中心に、学問や社会の基本原理や真理につい て、自律的に探究することができる。 | ビジネスプロセスで生じる具体的な問題について、専門知識に基 づき解決案を導き、新たな環境を創造するよう能動的に取り組む ことができるようになるための研究・応用部門科目を3年次及び4 年次を中心に配置する。 | | 卒業論文/卒業研究において、先行研究の精査・仮説の検証と その方法・主題の独創性・学術的意義をふまえ、学修成果を測定 する。 | 卒業論文 | |